

暦の上では一年で最も寒さが厳しくなる「大寒」の21日、神戸・六甲山上の展望台「六甲枝垂れ」で、夏場に使う天然の氷を切り出す体験会が開かれた。参加者はチェーンソーやのこぎりを使い、雨水をためた氷棚に張った厚さ約8センチの氷を、小気味よい音を響かせながら切り出した。

大寒ずっしり

六甲山上で氷切り出し

標高約880メートルにある「冷風体験」に活用される。同展望台の気温は午前9時半時点で氷点下2度。参加した神戸市長田区イベントを主催した六甲の会社員塚原庸恵さん（32）は「自然の力を体感でき、暖冬の影響で氷の張りが例年より約2週間遅かったが、ここ数日の寒さで一気に厚みを増したという。氷は「氷室」と呼ばれる展望台内の貯蔵庫に保管し、夏に開かれ

残っていて、やっと冬本番という感じがした」と話していた。

（井上 駿）

……NEXTに動画



氷室に入れるため切り出された氷＝21日午前、神戸市灘区六甲山町（撮影・小林良多）